板野郡　特別活動部会

◇藍住中学校の取組◇

【領域：生徒会活動】

「生徒会活動の再構築による，主体性が高まる生徒会活動」

ー「わくわく活動」を中心に，SDGs の視点を取り入れた実践を通してー

１　はじめに

本校は，徳島県の中央を流れる吉野川の下流北岸に位置し，旧吉野川と吉野川に囲まれたデルタ地帯，いわば，たゆまぬ吉野川の沖積によってできた平坦な土地で，海抜はわずか 5.17，山がまったくない町にある。町の人口は 35,355 人，平均年齢 45，7 歳（2022 年 10 月現在）。近年，大型商業施設が次々と開店し，人口の増加・都市化現象が進んでいる。1988 年に，それまで１町１中学校（生徒数 1,298 名）であった本校は大規模校解消のため，２校に分離した。

令和５年度は生徒数５０９名，学級数 20（特別支援学級５含む）の中規模校である。校訓「誠実・自主・協同」，学校教育目標「自己を見つめ，チャレンジで世界を広げよう！」の下，令和５年度のスローガンを「あいさつでつながる信頼　広がる世界」とし，その実現に向けて日々の教育活動に熱心に取り組んでいる。

２　生徒会活動について

本校では，生徒の主体性，自主性を育み（校訓・めざす生徒像の「自主」を高める），学校教育目標「自己を見つめ，チャレンジで世界を広げよう」の達成を目指そうと考え，生徒の主体性が高まる教育活動の展開をめざし，2022 年度に生徒会活動を再構築した。生徒会活動を，生徒や教職員の課題を踏まえ，さらに，ＳＤＧｓの視点に沿って再構築し，行っている活動も，ＳＤＧｓの視点で価値づけた。キーワードとして，このように挙げることができる。

☆キーワード☆
・持続可能な社会の担い手となる
・誰一人取り残さない
・グローバル社会に対応できる人材の育成
・18 歳で主権者になることへの対応

2021 年度までは７委員会（代表/体育/生活・安全/栽培・美化/保健・給食/図書/学習・人権）で活動していた専門委員会を，話合い活動や実践できる場を設定するため９委員会に再編成した。

生徒会の活動「正法寺川アドプトプログラム」の価値づけ
↓
ＳＤＧｓの目標６（安全な水），目標 14（海の豊かさ）
目標 11（住み続けられる街づくりを）の視点で活動を捉え直す

⑴　生徒会組織

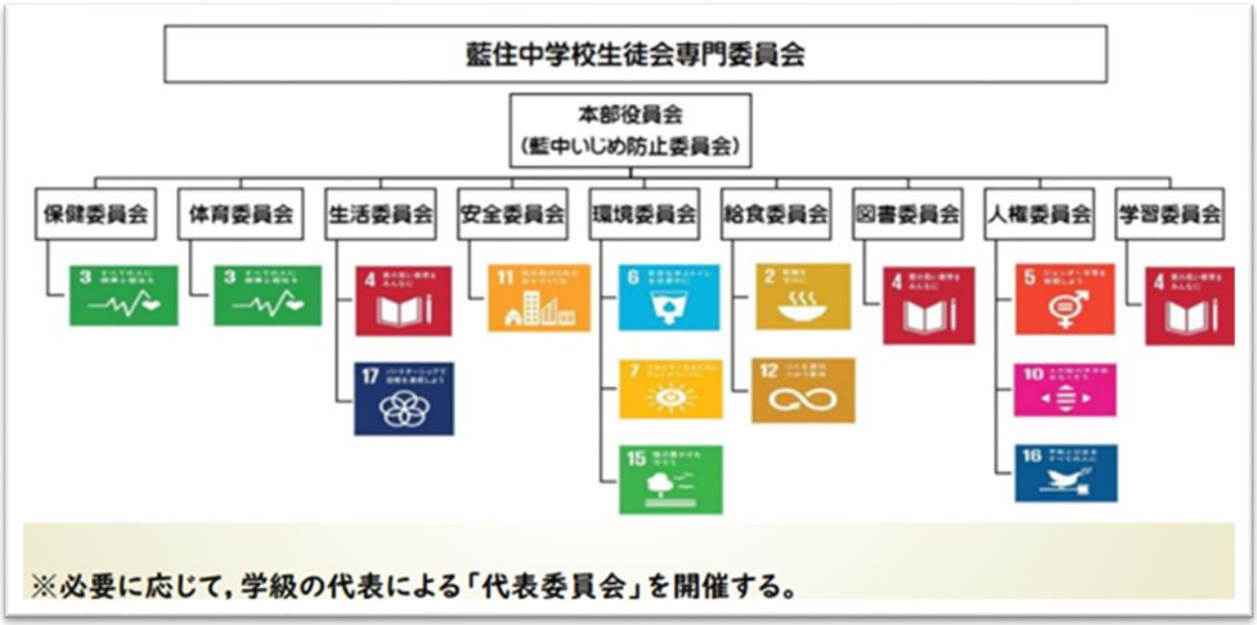

図１　生徒会組織と各委員会のＳＤＧｓの目標との対応

生徒会は，本年度の活動テーマを“One for all，All for one” と定め，活動している。生徒会本部(本年度は，会長１名，副会長２名，執行委員の計 22 名で活動)は，活動内容により，適宜も「校則検討委員」と「学校行事検討委員」に分かれて活動している。

⑵　９専門委員会について

専門委員会では，学校の課題やＳＤＧｓの視点で生活を見直し，学校全体に向けての活動計画を立てて，個々の振り返りを重視し，ＰＤＣＡサイクルを回しながら，よりよい生活を目指して活動する。生徒会活動にＳＤＧｓ を取り入れ，生徒が新しいアイデアを生み出せるような場の設定と仕掛けづくりをする。ＳＤＧｓ は義務ではなく，自主的な取組を促すための目標で十人十色，個人に合ったやり方がある。自分のやってきたことがＳＤＧｓ だと生徒たちにも気付かせたい。そして，自分たちの何気ない行動が世界や未来とつながっている，そう考え，主体的に行動に移すきっかけになればと考える。

◎毎月１回・6 校時・全員参加（各 60 人前後）
◎SDGs の視点で考える
◎異学年の縦割り班での活動
◎「話合い活動」（対話と合意形成）を大切にしている

①　活動内容

ア　中心となる活動「わくわく活動」を決定し，専門委員会の年間計画を立てる。
（「月ごとの目標」は決めない）
各委員会で年間１回以上の学校や社会をよくするための「わくわく活動」を

計画し，それに向けて，話合い活動をする。「わくわく活動」が終わった後は，振り返りをし，次につなげる。

委員会ごとにＰＤＣＡサイクルを回し，具体的な活動の実践に取り組む。

イ　「わくわく活動」を中心とした活動内容と，「常時活動」の年間計画を立て，実行する。

ウ　活動の目的を年間活動目標（テーマ）に表す。

☆各委員会の「2023年度年間活動目標（テーマ）」

専門委員会	年間活動目標（テーマ）
本　部	One for all, all for one
保　健	健康第一　～朝・昼・晩　規則正しい生活を～
体　育	身体づくりのきっかけをみんなに作る
生　活	一人一人が輝ける雰囲気の良い藍中
安　全	みんなが安心して暮らせる地域にしていく
環　境	地球に優しい環境づくりを考えていこう
給　食	HAPPY LUNCH!
図　書	いろいろな種類の本を知ってもらい、 一人でも多くの人に読んでもらおう
人　権	よりよい藍中にしていくために人権意識を高める
学　習	1分前着席や授業準備をする

☆「わくわく活動」について

生徒が主体的に取り組むことができるよう，生徒の主体性を高めるための自発的，自治的な要素を増やしたいと考えた。特別活動は「なすことによって学ぶ」ことより，生徒が主体となって学校をよくするため「やってみたい」ことを計画し，それを中心とした活動をすることとした。「やらされる」の対義語は「わくわくする」であると考え，「わくわく（するような）活動」と呼ぶことにした。

☆各委員会の中心となる「わくわく活動」2023年度

委員会	中心となる「わくわく（するような）活動」
本部	校則検討委員会・文化祭や学校行事の生徒会主体の運営
保健	「藍（アイ）ス　ウイーク」クールビズ週間の実現（9月）
体育	学年ごとの球技大会の実現
生活	ペットボトルキャップで「世界の子どもにワクチンを」活動
安全	「交通安全マップ」「子ども目線の防災マップ」作戦
環境	正法寺川アドプトプログラム（6月）で抜いた草で「雑草堆肥づくり」
給食	調理実習・お悩み相談コーナー・調理員さんに感謝の手紙
図書	縦割り6班で「ポスター作成」「アンケート作成」「図書室でのイベントを計画」「しおり作成」「ランキングチラシ作成」「ポップ作成」
人権	人権に関する動画を作り、学校中のモニターで流す
学習	学習アンケートをし「家庭学習の手引き」づくり・給食放送でクイズ

② 「個人振り返りカード」の活用

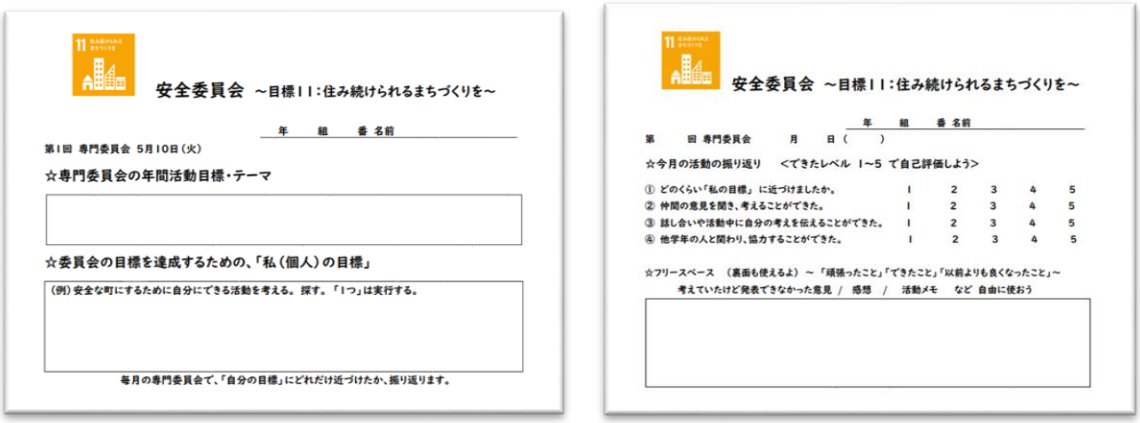

図２ 個人振り返りカード

個人振り返りカードを導入し，自己評価を全員が書いて学級ごとに閉じていくようにした。

＜個人振り返りカードのポイント＞

- 個人の振り返りカードを綴じていく。
- 学習指導要領の目標に沿った自己評価項目。
- 年間活動目標を達成するための「自分の目標」を立て，そこにどれだけ迫れたかを自己評価していく。

委員会の年間活動目標（テーマ）を達成するために自分は具体的に何をするか，という「私の目標」を立て，それにどれだけ迫れたかを毎回自己評価していく。

さらに，①仲間の意見を聞き，考えることができた。

②話し合いや活動中に自分の意見を伝えることができた。

③他学年の人と関わり，協力することができた。

という学習指導要領の目標に沿った３項目と「私の目標へどれだけ近づけたか」という項目からなる，合計４つの項目になっていて，できたレベルで振り返る。フリースペースには発表できなかった意見や感想を書き，教員がチェックする。

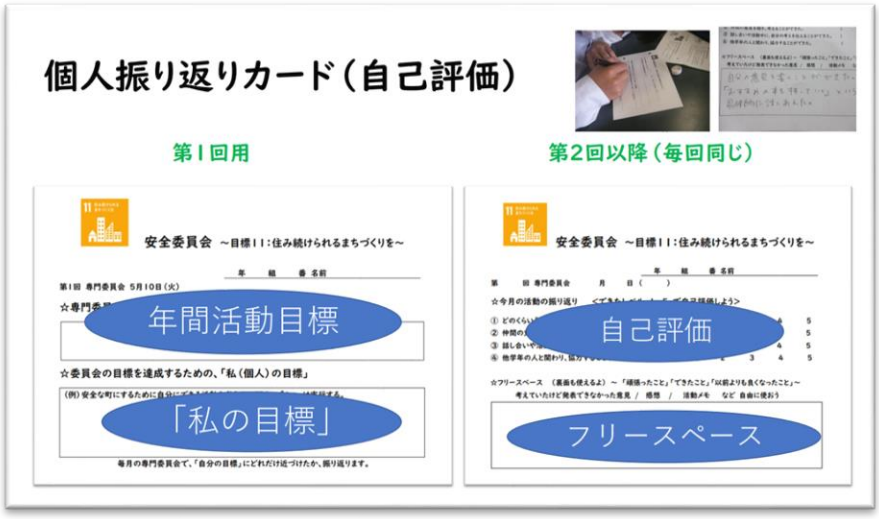

図３ カードの説明図

③　専門委員会の担当教員の決定方法

教員の多忙感を軽減し，教員の主体性を高めるために，担当を学年で相談し，自分で選ぶようにした。そして，主担当を決めず，各月での中心で担当者を年度初めに決め，順番にした。

以上のように，これまでの生徒会活動の内容をゼロから見直し一新した。

3　具体的な取組の紹介

⑴ 生徒会本部校則検討委員のわくわく活動（2023 年度）・・・生徒総会の開催

本年度も生徒会本部の校則検討委員は，昨年度に引き続き，校則について考えようということになった。昨年度は，全生徒からはアンケートにとどまっていたため，今年度は，校則について全学級で学級会を開き，それをもとに代表委員会及び生徒総会を開催し，全生徒で校則について対話する機会をもって検討しようということになった。以下に，一連の活動の流れを紹介する。最上位目標を「生徒や先生が安心し，笑顔で過ごせる学校を目指して，時代に合ったきまりについて考える」とした。 また，この活動の目標を「生徒会活動を通して，集団や社会の形成者として集団や自己の生活，人間関係の課題を見出し，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする」とした。

①　9 月 25 日：9 月生徒会専門委員会

生徒会本部役員で「生徒総会を含む活動の流れ」の検討と，生徒会本部として「藍中のきまり」についての意見交換をする・・・後日の代表委員会に提出

②　9 月 25 日の週：計画の周知

「藍中のきまり」について考える「生徒総会」を計画していることを全生徒・全職員に周知する。生徒会長と校則検討委員長の連名での放送をする

③　9 月中：全校生徒が「藍中のきまり」について，全校生徒一人一人が考える

・気になる項目に線を引き，そう感じる理由も明確にする

・「藍中のきまりについて考えよう」ワークシートの配布（9 月中＆ワークルームへの掲示

（例）「変える必要はない」「〇のきまりはなぜあるのか」などの意見を書く。

④　3 年：10 月５日，2 年：10 月４日，1 年：10 月３日：全学級で学級会(学級活動)

※自分の意見（理由）を学級で発する体験をする。<u>心の中で思っているだけでは，実現につながらない。</u>

・学級の<u>全意見（発表として出た意見）</u>を，提出用紙にまとめ，代表委員会で提出する

⑤ 10 月 20 日：代表委員会（学級委員長会議）

・出席者：本部役員，執行部員，学級役員 2 名（学級委員長，副委員長が望ましい）

・生徒会本部・執行部であり，かつ学級役員の生徒は，学級役員として生徒総会に参加する

・学級会の内容を報告してもらう（すべて）

・生徒総会で話し合う議題（討議の柱２つくらい）を決定する

・生徒総会の流れを考える

⑥ 職員への事前周知：代表委員会の決定事項（特に，討議の柱）について，教職員に周知する（特活主任）

⑦　10 月 20 日（金）6 校時：生徒会校則検討委員会　　生徒総会の準備・役割決定

⑧　10 月 30 日（月）45 分間：生徒総会（パネルディスカッション）

☆生徒総会の目的「他者の意見を聞き，自分の意思を決定し，さらに合意形成していく」

・生徒総会では，学級役員が代表として，話し合う，パネルディスカッション方式
　全生徒が周りで見て，意見交換の場・時間も持つ

・生徒総会では，最終決定はしない。対話と合意形成を図る

・多数決では決定しない。少数意見を無視しない

・説得力のある理由のある意見を重視する

・「みんなが言っているから・・・」という意見は，できる限り通さない。もっと理由を考えさせる。しっかりと自分自身で藍住中学校のことを考えてもらう。そのために，必ず意見にはそう考える理由を言ってもらう

⑨11 月 15 日：生徒会校則検討委員会

生徒総会を受けて本部役員（校則検討委員）での話し合いと生徒意見のまとめ

⑩ 11 月 16 日昼休み：生徒会からの要望の会，職員会

⑪ 11 月 29 日放課後：生徒代表（生徒会長，校則検討委員長）と教職員の話し合い

⑫ 12 月 2 日～：保護者・教職員アンケートの実施

⑬ 12 月 8 日：学校運営協議会で意見交換（生徒会長，校則検討委員長）

⑭ 12 月 11 日：企画委員会

⑮ 12 月 19 日：職員会を経て最終決定（学校長）

⑯ 12 月 22 日：生徒への公表（以下の図の通り）

生徒会からの要望	◎決定内容 →理　由
①室内での防寒着着用	◎従来通り。体調面で必要な場合は申し出があれば対応する。 →健康面と制服の意義の両面から
②夏服と冬服の移行期間をなくす	◎移行期間をなくす。但し、儀式的行事は揃える。 →個人差を考慮する。
③男子のベルト穴の数を自由にする。	◎穴の数に関する記載を削除。 →経済的理由は妥当。
④男子制服に半ズボンを許可	◎従来通り →“アイスウイーク”（体操服登校）を適時活用
⑤男子制服にスカートを許可	◎従来通り。但し、相談があれば個別対応を行う。 →現段階では個別対応とし、相談があればトイレ・更衣室の使用について協議する。

表　最終決定事項

図４　生徒総会の様子

⑵ 「藍ス（アイス）ウイーク」の実施（保健委員会のわくわく活動）

2023 年度，保健委員会では，SDGｓの視点からもクールビズの取り組みに注目し，「藍スウイーク」と名付け，終日体操服で過ごすことを計画し，企画書を作り，職員会で要望し，実現させた。生徒にとても好評で，9 月 8 日の文化祭では，今年の猛暑に対応し，藍スウイークの服装で終日過ごした。

2023/07/05

「藍（アイ）スウィーク」実施のための提案書

保健委員会

保健委員会では今年度、『 健康第一　― 朝・昼・晩　規則正しい生活を ― 』を年間目標に活動を行っています。その中で、SDGs の視点からも健康によいクールビズの取組みに注目しました。その効果は周知の通りであり、本校でも「 藍スウィーク (ice week)」と銘打って実施を検討していただきたいと思います。

【1】クールビズの定義

室温 28 ℃で快適に過ごせる軽装や、取り組みを促すライフスタイルのこと

・涼しい服装をすることでエアコンの設定温度を下げすぎないようにすれば、それだけ必要となるエネルギーの量が減ることになり、地球環境の改善にもつながっていく。
・人々の服装に対する常識を見直し、快適に過ごしつつも地球に優しいライフスタイルの実現を目指す。
・夏らしい軽装でいながらも、公の場にふさわしい、一定のマナーを守った服装をすることがクールビズの本質である。

【2】健康面からのクールビズ効果

・外の暑い空気から室内の涼しい空気にふれたときは気持ちがいいが、ずっとその環境でいたり、温度差のある場所を何度も出入りしたりするのは、健康に良くない。
・自律神経の乱れや血行不良を引き起こしやすくなり、夏バテや夏風邪といったこの時期ならではの不調が現れてくる場合もある。

【3】「 藍スウィーク (ice week) 」実施案

・期　間　　８月３０日(水) ～９月７日 (木) (６日間)

・方　法　　終日、夏の体操服で過ごす。(体操服登校)
半袖体操服は、裾を出したままでよい。
個人の判断で制服着用も認める。(体育の授業後の着替える場合 等)

・その他　　実施前に委員長より校内放送で告知
各階にポスター掲示し、周知
アンケートを実施して，次年度に向けて成果と課題の考察

図５　「藍スウイーク企画書」

（３）各専門委員会のわくわく活動の様子（写真）

図６　体育委員会（球技大会），環境委員会（雑草堆肥づくり），
人権委員会（一人一枚ポスター作り）のわくわく活動

図７　安全委員会（段ボールベッド，防災ゲーム），
図書委員会（本 POP，図書の分類表づくり）のわくわく活動

４　おわりに

特別活動は，「なすことによって学ぶ」。学習指導要領の特別活動，生徒会活動の目標にあるように，「異年齢の生徒同士で協力し，学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて，計画を立て役割を分担し，協力して運営することに自主的，実践的に取り組むことを」目指し，それぞれの委員会ごとに PDCA サイクルを回す。また，実践に向けての「どうしたらいい？」という生徒からの質問には，教師は安易に答えるのではなく，時には質問で返し，課題解決，実現のためにしっかり自分で考えさせている。

そして，ＳＤＧｓとの関連に関しては，「ＳＤＧｓを学ぶ，する」，のではなくて，「ＳＤＧＳの視点で考えさせる」。困ったときには，ＳＤＧｓの視点で自分たちにできることを考えさせるよう，教師の適切な指導を行う。「話し合い活動」を大切にし，主体的・対話的で深い学びになればと考える。生徒会活動を再構築した当初は，「どうしよう，」「どうなるかな」という声が職員室でもたくさん聞こえた。しかし，取組が２年目となり，教師も主体的に考える様子が増えてきた。生徒と共に，教職員も学び，主体性の高まりを期待する。

生徒のためだけの教育活動ではなく，教職員も試行錯誤して協力し，特別活動に真剣に取り組むことで新たな学校文化が生まれている。生徒会活動を通して生徒も教職員もよりよい人間関係作りができ，主体性が高まってきた。また，学校も社会の変化に柔軟に対応していかなければならない。特別活動は学級・学校文化を創る。その教育力を十分に生かし，生徒も教員も育つ学校となるよう，さらに協働の組織体制を確立し，今後も取り組みを続けていく。

（文責　藍住中学校　元木　いづみ）